

大和合金 大型鍛造品設備を増強

8ト対応のマニユプレーター導入

のマニユプレーターは6台目。これまでは5トに対応するタイプが最も大型。8ト対応タイプはトヨタ製で、約2千万円をかけて導入した。

銅合金の大型鍛造品を製造するメーカーは少ない。萩野源次郎常務は「設備投資で加工の幅を広げることで受注の拡大につながるのでは」と期待する。導入したマニユプレーター

は2トの圧力で素材を鍛造する大型のエアハンマーで用いられている。

同社では上工程の溶解鍛造でも大型品の鍛造に向けた取り組みを強化。この8月には鋳型を製作し従来から3割太いネーバル黄銅のビレットを鍛造する体制を整えており、その後クロム銅でも大型品の鍛造に成功している。

銅合金の鋳鍛造メーカー大和合金（本社・東京都板橋区、社長・萩野茂雄氏）はこのほど、鍛造の際にビレットを固定して作業を行う電動車両のマニユプレーターを1台導入した。製造を担当する埼玉県のグループ会社、三芳合金工業に配備している。8トまでの材料を先端部に固定でき、より大型の部材加工に対応できる。同社



三芳合金工業に配備したマニユプレーター

